

# Youth Forum News (日本語版)

No. 72

FALL, 2016

## 『君の名は』

小林 高太朗

映画『君の名は』の興行収入が164億円を突破した。8月26日から11月ごろまで公開された。制作会社はコミックウェーブフィルムで、総監督は新海誠である。新海は「雲の向こう、約束の場所」や「秒速5センチメートル」も手がけてきた。彼はアニメ映画の製作を学び、アニメ業界では有名である。

スタジオジブリの映画を手がけたこともある才能があり有名なアニメーションデザイナーである田中将賀や安藤雅司が作画を担当し、この映画に対して国内のアニメファンから期待が高まっていた。二人の主人公、東京に住む瀧と田舎の山奥に住む三葉。瀧と三葉の心と体が入れ替わってしまう。

この物語は高校生の三葉が東京の瀧の体で目が覚める所から始まる。彼女は体が自分の物ではないことに気付く。そして高校生瀧も田舎の山奥で自分の体が入れ替わっていることに気付く。しかし彼らはお互いの事を知らない。

彼らは始め驚き困惑していた。時々彼らの体は目覚めると一日入れ替わり次の日には本当の体に戻る。彼らは次第に腕や手に文字を書いたり互いのスマートフォンに日記をつけたり、互いにメモを残したりし交流しようとする。

徐々に彼らは惹かれあう。本質的にはこれは恋愛物語である。この映画の見せ所は作画だった。瀧の済む東京の街並みの光の反射や影、光葉の住む田舎の夕日、そして湖や森林の眺めが見事なほどに美しかった。映画館の大きなスクリーンで鑑賞するこの映画には目を見張った。



## 藻岩山ロープウェイ

内海 雄介

藻岩山は観光地やデートスポットとして札幌で有名です。また、藻岩山は近年、日本三大夜景となっています。夜には、多くのカップルや観光客が展望台を訪れています。人ごみが苦手であれば、日中に行くことをお勧めします。もし彼氏や彼女と藻岩山ロープウェイに行くとしたら、夜に行くべきです。

また、山頂には幸福の鐘があります。カップルは手摺に愛の南京錠を取り付けることができます。愛の南京錠を手摺に取り付けたカップルは絶対に別れないと言われています。



藻岩山のプラネタリウムは世界最高峰だと言われています。従来のプラネタリウムは6,000から30,000の星を映し出すことができますが、藻岩山のプラネタリウム5,000,000もの星を映し出すことができます。

藻岩山の展望台は2011年にリニューアルされました。展望台は誰でも使いやすいように改築されました。エレベーターが地下1階から最上階までつながっているため高齢者や障がい者、子供も最上階に行きやすくなっています。

藻岩山の2017年度夏の営業時間は10:30から22:00の間です。冬の営業時間は11:00から22:00の間です。また、11月21日から11月30日まではメンテナンス期間のため全館休業です。しかし、12月31日は11:00から17:00まで。

1月1日は5:00から17:00まで特別に開いています。ロープウェイで藻岩山麗駅から藻岩中腹駅まで行くには、大人1,700円、子供850円かかります。そこからミニモリスカーを使って藻岩山頂駅に行くには、さらに大人1,100円、子供550円かかります。

# 「サハリン先住民フェスティバル交流派遣プログラム」

米澤 諒

2016年8月4日（木）～8月10日（水）にかけて、平成28年度日露青年交流事業である「サハリン先住民フェスティバル交流派遣プログラム」に参加しました。

## 1日目 2016年8月4日（木）

新千歳空港18時10分発の飛行で韓国のインチョン空港に行き、空港内で一泊しました。この日は、両替に困りました。新千歳空港で日本円からロシアのルーブルへ両替しようとしたのですが、他の参加者が先に両替していたためか、そこで両替できなかった人もいました。インチョン空港でもルーブルが少なかったようで、そこでも両替できない人がいました。

翌日向かったユジノサハリンスク空港でできるのかと、思っていたところ、空港内に両替所がなかったため少し焦りましたが、在ユジノサハリンスク日本国総領事館の副領事の佐藤大さんができなかった人の分を現地の銀行で両替してくださいました。この件以外にも、佐藤さんに大変お世話になりました。

## 2日目 2016年8月5日（金）

9時にインチョン空港を出発して、14時頃にユジノサハリンスク空港に着きました。飛行機を降りてから入国審査が終わるまで約1時間もかかりました。窓口が3つありましたが、一人一人の審査に時間をかけていました。入国審査が終わって出ると、フェスティバル関係者の方々が出迎えてくれました。

ニブフの伝統衣服を着て、ロシアの伝統的な歓迎をして頂きました。本来は、パンと塩を少しずつとって食べるのですがサハリンということで塩のかわりにイクラが使われ、また人の顔ほどもあるパンの大きさにも驚きました。とても美味しかったです。

その後、サハリン州立図書館に行き、フェスティバル出演者による舞踊などが関係者に向けて披露されました。今回のフェスティバルには、アイヌ団体の「札幌大学ウレシパクラブ」と人民国立アンサンブル「メンダメ・イルガ」、サハ共和国の歌手であるシニリガ・クィルリアアさんが主な舞踊披露のゲストでした。

人民国立アンサンブルは、サハリンの先住民が中心の団体でした。サハ共和国のシニリガ・クィルリアアさんはサハで有名な歌手ですが、それだけではなくサハ民族の文化や言語の教師でもあります。

舞踊披露が終わったあとは、一旦ホテルにチェックインをしたあとにフェスティバル出演者による前夜祭的な食事会がありました。在ユジノサハリンスク日本国総領事館やフェスティバル主催者や各団体の挨拶がありまし

た。また、生バンドの演奏などもありました。洋画でみるような結婚式と似た雰囲気でした。私は、ずっと海外の結婚式に参加してみたいと思っていたので、結婚に似たものに参加できて嬉しく感じました。



## 3日目 2016年8月6日（土）

この日がフェスティバルの初日で、サハリン州立博物館で開催されました。会場で日本から持ってきた展示物を設置しましたが、サハリンの様々な民族の有名な工芸品も展示されていました。木彫りの作品や、刺繍やビーズが施されたもの、皮製品、伝統衣装など、多種多様なものがありました。

フェスティバルの開会式では、多くの一般の方の前で舞踊披露をさせていただきました。開会式が終わると、私たちはトロイツコエ村で開かれている鐘祭りに行きました。こちらの祭りの主催者から、ウハという伝統的スープを頂いたのですが、このウハのスープがアイヌの伝統料理の一つであるオハウというスープとそっくりでした。その後は祭りの出店やロシアの伝統舞踊の披露を楽しみました。出店に黒パンのジュースのお店が多くあり、試しに飲んでみましたが、私の口には合わなかったです。

その祭りの後はユジノサハリンスクに戻り、街を見渡せる山頂のスキー上に行きました。そこから見える景色は素晴らしかったです。その後、参加者の多くが希望したため、地元のスーパーに行きました。広さとしては日本の大きめのコンビニぐらいでしたが、日本のスーパーとの違いは、入口の近くにレジがあることや、レジ係以外に警備員らしき人がいたことです。スーパーに行く機会は他にもあったのですが、どれも同じようなものでした。個人商店のような小さな店には警備員はいなかったのですが、スーパーでは必ずいるようでした。また、アルコール類を買うと必ず黒い袋に入れられることも、日本との違いでした。



#### 4日目 2016年8月7日(日)

フェスティバル2日目のこの日は、前日からあった工芸品の展示だけではなく工芸体験もできるようになりました。木彫りでアザラシ、魚の皮でカバン、ビーズのネックレスなどを作る体験ができます。私は木彫りのアザラシを作りました。昼には私たちの舞踊を披露しました。午後には出展していた方たちが伝統装束と現代の服を融合して作った衣装のファッションショーが行われました。非常に手の込んだものや町中で着ても違和感がないものなど、可愛い服が数多くありました。

閉会式でも舞踊を披露させて頂きました。閉会式では、展示されていた工芸品の作製者の方々が表彰されていました。閉会式後は、美術館へ移動し、ウィルタ人の方が作った魚の皮を使った絵などを鑑賞しました。この魚の皮を剥ぐ技術は一時期途絶えていましたが、この方が復活させ、その技術を伝えるDVDを発表しました。

この美術館での展示はその完成披露の場でした。映像を少し拝見できましたが、魚の皮を使っていたため、今まで見たことがないような、とても独特で、綺麗なものでした。



#### 5日目 2016年8月8日(月)

午前中は、サハリン動植物園を視察しました。日本での動物園では見られないような動物がいて、楽しい時間を過ごしました。鹿がいましたが、北海道で見るものよりも大きくて驚きました。また、初めてラクダを見ることもできました。その後、隣接するガガーリン公園を散歩しました。公園内に日本の神社の跡地がありました。

午後は、チャーホフ博物館を訪れました。チャーホフ氏が書き残した昔のサハリンの様子を再現した博物館でした。チャーホフ氏は、樺太アイヌの生活の様子など多くのことを書き残した人でもあります。

博物館では、樺太アイヌについての展示は少なく、サハリンに居たロシア人の暮らし方や受刑者の様子が再現された展示が中心でした。ロシアではかつて、犯罪者や政府に対する抗議活動を行った人々をサハリンの刑務

所に送っていました。その様子も展示されています。さらに、博物館の二階で現地の方との交流することもできました。お互いに伝統舞踊を披露したり、普段の活動を紹介しあったり、文化の違いについて話すこともでき、非常に有意義でした。



#### 6日目 2016年8月9日(日)

この日は、ヴェストチカ村へ行きリャグシカ山を散策しました。道沿いにはキャンプができるスペースがたくさんありました。リャグシカ山頂からは、映画で見るような大自然の素晴らしい景色が広がっていました。大きなカエルのように見える岩もありました。散策のあとは、近くにある大きな湖でランチをいただきました。

少し肌寒かったのですが、湖では多くの人が泳いでいました。その後ユジノサハリンスクに戻り、サハリン州立博物館を視察しました。フェスティバルの会場だったのですが、フェスティバルの最中は忙しくて館内を周れなかったのが、学芸員の解説付きで見ることができて良かったです。樺太アイヌの展示もあり、想像より大きく展示されていたのが嬉しかったです。アイヌ文化、動植物、第二次世界大戦などについての展示がありました。

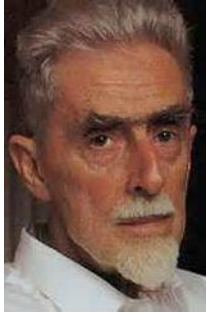
博物館では、国立サハリン大学の日本語学科の学生とも交流し、ロシアの文化などについて話しました。最後に、在ユジノサハリンスク日本国総領事館の領事と副領事と共に食事をしました。

食事の席では、今回の研修について感想を伝え、また、お二人のロシアでの経験など貴重なお話を聞くことができました。

その翌日、日本に帰国しましたが、この7日間、私の人生で忘れることのできない、大変貴重な体験をすることができました。このような体験ができたのは、フェスティバルを主催した方々（特にサメンコ・ガリナさん、フリユン・オリガさん）や日露青年交流センターや在ユジノサハリンスク日本国総領事館や通訳をして頂いたソコロフ・バレンティンさんなど多くの方のおかげです。ありがとうございました。イヤイライケレ。

# エッシャーの世界

清野 可奈絵



昨年の9月3日から10月16日までの間、札幌芸術の森美術館にて「エッシャーの世界展」が開催されていました。たくさんの人々が老若男女を問わず楽しんでいました。入場料は大人が1,300円、高大生が700円、中学生が¥500円でした。小学生以下は無料ですが、保護者の同伴が必要だったようです。

この展示では、多くのエッシャーの作品を見られるのはもちろん、彼自身や作品について詳しく知ることができたり、土産品を買うことができたりました。

ご存じかもしれませんが、エッシャーは世界で最も有名なグラフィックデザイナーの1人です。彼は世界中のどのような人にも愛されるような傑作を多数残しています。

彼の傑作には「メタモルフォーゼⅠ、Ⅱ、Ⅲ」や、「空と水Ⅰ」、「描く手」、「滝」など、空想的な創作物が描かれていることが多くあります。

彼はかつてイタリアに住んでいた頃にその風景や建物に魅了され、風景画の作品も描いていたようですが、それよりも彼の独特な作品の方が多く知られています。

なぜ彼はあのような不思議で独特な作品を作り始めたのでしょうか。というのも、今回の展示によると、それは、彼がスペインのグラナダに14世紀に建てられたアルハンブラというムーア式の宮殿で精巧なタイルを見て、平面の正則分割に魅了されたからだそうです。

エッシャーはオランダで生まれ、学生時代にはサミュエル・イエッスルン・ド・メスキータのもとで版画を学びました。

その後、23歳のとき、彼は友人たちと共にイタリアに行きました。そこで彼は後に妻となるイエッタ・ウミカーと出会い、当地での彼の生活は幸せに満ち溢れていたそうです。

しかし残念ながら、その後台頭し始めたファシスト政権を避けるため、1935年、彼はやむなく家族と共にイタリアを離れ、スイス、ベルギー、オランダと、次々と移住することになってしまったようです。

しかし、それらの国々の景色や建物は、彼にとってはそれほど魅力的ではなかったため、彼は風景画を描くことを諦めざるをえませんでした。

それまで描いてきた風景画の代わりに、彼はいわゆる不可能図形の構造物を本格的に作品に取り入れ始めました。

数学者によると、エッシャーの作品は本来であれば非常に難しい数学を使って作られるものだそうです。しかし、不思議なことに、彼は学生のころ数学がとても苦手だったそうです。

しかし、それならば、なぜ彼はあのような複雑な作品を作ることができたのでしょうか。というのは、地質学者だった兄の提案で、結晶学を作品を作る際の参考にしていたことが、その理由の一つのようです。また、彼は幼いころから、三次元のを二次元のものとして描くことが得意だったようです。

エッシャーの生涯や芸術などに興味を沸いたら、M.C. エッシャーの公式サイト

(<http://www.mcescher.com>) をご覧になってみてください。

## 札幌オータムフェスト 2016

工藤 彰浩

年に一回のオータムフェストが9月9日から10月1日まで大通公園で開催されました。今年は約230万人の人々が会場を訪れ、食べ物や飲み物、そして、ショーなどを楽しみました。とても利益をあげることができたので、オータムフェスト実行委員会は利益の一部を日本赤十字社に寄付しています。

会場にはいろんな種類の飲食店がありました。たとえば、ラーメン屋やスープカレー屋、シーフード、お肉、デザート店などです。特に、イチゴ味のかき氷はとてもおいしかったそうです。イチゴ味のかき氷はイチゴによく使われる練乳とよく合います。値段は少々高めですが。

もし祭りの雰囲気を感じるには、大通公園の1、5、8丁目がぴったりの場所でした。ここでは、ほとんどの店が北海道の食品を扱っていました。

甘いもの好きにおすすめなのは、6丁目でした。なぜなら、そこには人気のカフェやスイーツ店がありました。オータムフェストでは多くの小物店も出展していました。このように、オータムフェストはみんなにとって楽しめるイベントになっています。2017年の札幌オータムフェストは9月9日から9月30日までで開催される予定です。

